

# 【 中 津 市 】

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：国語

全国との差が±5Pを超える項目を中心に

	問題番号	正答率 (%)			県との差	全国との差	問題の概要	出題の趣旨
		中津市	大分県	全国				
全体	—	66	66	64.7	±0	+1.3	—	—
成果が見られる問題	3二	68.2	64.7	56.6	+3.5	+11.6	丸山さんの【文章の下書き】の…部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す	目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する
	3三(1)ア	84.2	81.8	78.3	+2.4	+5.9	丸山さんの【文章の下書き】の__部アを、漢字を使って書き直す(ころがっている)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う
	3三(1)エ	85.2	80.3	79.0	+4.9	+6.2	丸山さんの【文章の下書き】の__部エを、漢字を使って書き直す(げんいん)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う
	3三(2)イ	73.2	73.2	67.0	±0	+6.2	丸山さんの【文章の下書き】の__部イで、__部「残されています」の主語として適切なものを選択する。	文の中における主語と述語との関係を捉える
課題が見られる問題	3三(1)ウ	46.3	51.3	54.4	-5.0	-8.1	丸山さんの【文章の下書き】の__部ウを、漢字を使って書き直す(つみ重ね)	資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる

#### 【正答率の傾向から】

- ◇平均正答率は全国平均を上回っており、大分県とは同等である。
- ◇無解答率は、全ての問題で全国平均を下回っている。
- ◇「書くこと」の領域では全国平均を5P以上、上回っている。特に、目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができている（問題3二）
- ◇文の中における主語と述語との関係を捉えることについて全国平均を5P以上、上回っている。（問題3三（2）イ）
- ◇漢字の書きについては問題によって正答率に差がある。（問題3三（1））
- ◇目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけたり、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約したりする問題の正答率が低い。（問題2三、四）

### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：国語

- 単元を通した言語活動を設定するとともに、目的を明確にして、必要な情報を見つけたり、中心となる語や文を見つけて要約したりする学習活動を効果的に仕組むようにする。
- 文に合った漢字を正しく使えるようにするため、単に漢字を練習し覚えるのではなく、熟語や文例などとともに覚えられるような学習活動の工夫を行う。
- 総合的な学習の時間や他教科の中で国語の学習と関連できる学習を意図的に仕組むなど、教科横断的な視点で教育課程を編成していく。
- 課題が見られる問題については、類似した問題を用いなが補充学習や家庭学習で取り組み、定着を図る。
- 上記の具体的な改善方策を取り入れた授業について、指導教諭等の授業研において公開したり、好事例を通信で発信したりしていく。

# 【 中 津 市 】

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：算数

全国との差が±5Pを超える項目を中心に

	問題番号	正答率 (%)			県との差	全国との差	問題の概要	出題の趣旨
		中津市	大分県	全国				
全体	—	70	70	70.2	±0	-0.2	—	—
成果が見られる問題	1(5)	89.4	85.7	85.1	+3.7	+4.3	分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く	速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる
	4(3)	84.2	81.8	78.3	+2.4	+5.9	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる
課題が見られる問題	2(1)	49.3	53.7	55.1	-4.4	-5.8	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	三角形の面積の求め方について理解している
	2(2)	66.6	70.7	72.5	-4.1	-5.9	直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる
	3(4)	47.5	50.8	52.0	-3.3	-4.5	帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる

#### 【正答率の傾向から】

- ◇平均正答率は全国、県とほぼ同等である。
- ◇無解答率は、全ての問題で全国平均を下回っている。
- ◇「数と計算」の領域では全国平均を上回っている。特に、小数を用いた倍について言葉や数を使って説明することについては、全国平均より5P以上、上回っている。（問題4（3））
- ◇「図形」の領域では、全国平均を4Pほど下回っている。特に、三角形の面積の求め方について底辺と高さがどこかになるのかを理解できていない、複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉えることができていないという状況がある。（問題2（1）（2））
- ◇帯グラフで表された複数のデータを比較する問題で、割合のちがいが一番大きい項目を、割合が一番大きい項目と間違えて捉えている。（問題3（4））

### 具体的な改善方策

#### 小学校：算数

- 図形の領域では、図形の性質や図形を構成する要素、それらの位置関係を、操作活動や説明する活動を効果的に取り入れることによって確実に理解させる。
- 全ての領域において、キーワードを用いながら課題解決に向けた学習活動を行い、その中で自分の考えを説明するなど、アウトプットする場面を多く仕組むことにより、算数的用語や定義などの確実な定着が図れるようにする。
- 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や家庭学習で取り組み定着を図る。
- 上記の具体的な改善方策を取り入れた授業について、指導教諭等の授業研や推進ブロックの公開研において公開し、多くの教職員に参観してもらうことによって、どの学校でも全ての児童が考え表現する授業を目指していく。

# 【 中 津 市 】

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

### 1 調査結果の分析

#### 中学校：国語

全国との差が±5Pを超える項目を中心に

	問題 番号	正答率 (%)			県と の差	全国と の差	問題の概要	出題の趣旨
		中津市	大分県	全国				
全体	—	64	66	64.6	-2.0	-0.6	—	—
成果が見られる問題	1三	60.6	59.5	57.1	+1.1	+3.5	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く。	話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える
課題が見られる問題	4二	68.7	73.8	74.0	-5.1	-5.3	「随時」の意味として適切なものを選択する	事象や行為などを表す多様な語句について理解する
	4四	66.9	71.2	71.9	-4.3	-5.0	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く

#### 【正答率の傾向から】

- ◇平均正答率は全国、県を若干下回っている。
- ◇無解答率は、ほとんどの問題で全国平均を上回っている。
- ◇「書く」領域において全国平均を下回っており、特に伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことについて全国平均を5P以上下回っている。
- ◇「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域において全国平均を下回っており、事象や行為などを表す多様な語句の意味について理解することについては、全国平均を5P以上、下回っている。

### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：国語

- 単元を通じた言語活動を設定するとともに、目的や相手を意識させ、自分の伝えたいことが相手に伝わるかを検討する場面を設定する。また、書いた文章を互いに読み合い推敲する場面を設定する。
- 語彙指導に関しては、語句の辞書的な意味をただ理解させるのではなく、文脈上の意味との関係に注意しながら理解していくようにさせる。また、様々な語句を話や文章の中で使う活動を多く仕組み、慣れ親しむようにする。
- 総合的な学習の時間や他教科の中で国語の学習と関連できる学習を意図的に仕組み、教科横断的な視点で教育課程を編成していく。
- 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や家庭学習で取り組んでいく。
- 上記の具体的な改善方策を取り入れた授業について、指導教諭等の授業研において公開したり、好事例を通信で発信したりしていく。

# 【 中 津 市 】

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

### 1 調査結果の分析

#### 中学校：数学

全国との差が±5Pを超える項目を中心に

	問題番号	正答率 (%)			県との差	全国との差	問題の概要	出題の趣旨
		中津市	大分県	全国				
全体	—	55	57	57.2	-2.0	-2.2	—	—
成果が見られる問題	8(3)	16.2	12.8	11.1	+3.7	+4.3	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる
課題が見られる問題	4	41.5	48.3	48.0	-6.8	-6.5	経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している
	8(2)	32.5	40.3	36.8	-7.8	-4.3	2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ	相対度数の必要性和意味を理解している
	9(1)	36.9	38.4	44.3	-4.3	-5.0	四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる
	9(2)	57.5	61.9	64.3	-4.4	-6.8	錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す	錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している

#### 【正答率の傾向から】

- ◇平均正答率は全国、県を下回っている。
- ◇無解答率は、ほとんどの問題で全国平均を上回っている。
- ◇データの傾向をグラフの特徴を基に説明することは全国平均を上回っているが、正答率は低い。条件に沿った解答ができていない。また、相対度数の意味も十分理解できていない。（問題8（3））
- ◇関数の意味について変数を逆に捉えている生徒が多い。「…は～の関数である」を「～は…の関数である」と捉えている。（問題4）
- ◇平行四辺形になることを、条件を用いて説明することができていない生徒が多い。（問題9（3））
- ◇二つの直線を平行の記号//を使って表すことができていない。（問題8（3））

### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：数学

- 説明の基本形を用いながら、考えたことについて自分の力で文章化しながら説明する活動を効果的に取り入れ、知識・技能の定着と表現する能力の伸長を図る。
- 全ての領域において、キーワードを用いながら課題解決に向けた学習活動を行うとともに、考察の場面の充実を図ることで、算数的用語や定義などの確実な定着と思考力・判断力・表現力が確実に身に付くようにする。
- 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や家庭学習で取り組んでいく。
- 上記の具体的な改善方策を取り入れた授業について、指導教諭等の授業研や推進ブロックの公開研において公開し、多くの教職員に参観してもらうことによって、どの学校でも全ての生徒が考え表現する授業を目指していく。

# 【 中 津 市 】

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 小学校：学校質問紙

肯定的な回答の割合

	番号	質 問 事 項	中津市	国	市と国の差
成果が見られる質問	(13)	教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか（月に数回程度以上）	80.0	73.9	+6.1
	(14)	教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか（月に数回程度以上）	95.0	84.5	+10.5
	(24)	児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	100	82.4	+17.6
	(29)	調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	100	85.3	+14.7
	(56)	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	85.0	67.1	+17.9
	(64)	コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていますか	70.0	39.4	+30.6
	(65)	コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、校務改善を行うための準備ができていますか	95.0	74.1	+20.9
課題が見られる質問	(25)	個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	70.0	75.9	-5.9
	(41)	調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	85.0	90.7	-5.7
	(57)	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	65.0	82.2	-17.2
	(69)	コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がありますか	35.0	53.8	-18.8

## 中学校：学校質問紙

### 肯定的な回答の割合

	番号	質問事項	中津市	国	市と国の差
成果が見られる質問	(13)	教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか（月に数回程度以上）	80.0	55.5	+24.5
	(14)	教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか（月に数回程度以上）	90.0	68.3	+21.7
	(50)	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	90.0	72.9	+17.1
	(56)	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	100	75.8	+24.2
	(64)	コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていますか	60.0	39.5	+20.5
	(65)	コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、校務改善を行うための準備ができていますか	90.0	71.5	+18.5
	(67)	教員は、学習履歴（スタディ・ログ）をはじめとした様々な教育データを、生徒の状況に応じた指導に活用していますか	70.0	39.1	+30.9
課題が見られる質問	(30)	調査対象学年の生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	60.0	75.6	-15.6
	(31)	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	50.0	86.6	-36.6
	(44)	調査対象学年の生徒に対して、特別の教科 道徳において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか	80.0	97.9	-17.9

## 2 中津市の学校質問紙調査の結果をふまえて

- ・授業や学級の問題を抱えている教員に対して、全体で関わる体制ができている学校の割合が高い。若い教職員が急速に増えてきている中で、今後も組織的に問題を解決していく体制を整えていく。
- ・小学校・中学校ともにICT活用教育が進んできていることが分かる。これからは、教員のスキルに応じた研修を推進するとともに、授業の中で効果的に利活用できるように好事例の発信や推進校の取組の公開等を積極的に進めていく。また、校務の効率化についてもさらに推進していく。
- ・小学校・中学校ともに問題解決的な授業が定着しつつあることがうかがえる。今後も新大分スタンダードの定着と深化を図り、みんなが授業の中で活躍していくような組織的な授業改善を図っていく。
- ・小学校・中学校ともに発展的な学習の指導を行っている学校の割合が高い。発展的な学習をただ行うのではなく、子どもをつまづきを把握し、解決していけるような取り組みをこれからも継続していく。
- ・総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導がまだ十分ではない。ゲストティーチャーなど人と関わる活動が制限されている状況の中でも、ICTを活用してつながるなど多様なかわり方を探り、探究的な学びのある学習活動を仕組んでいく。
- ・中学校では、話し合い活動の充実が図られていない傾向が見られる。自分の考えを表現する機会を持つことはもとより、考えを見直したり、より効果的に相手に伝わる工夫を考えたりする学習活動を教科横断的に仕組み、各学校で組織的に取り組んでいく。

# 【 中 津 市 】

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 児童質問紙

肯定的に回答した児童の割合について（全国平均と比較して±5Pを超える項目）

	番号	質 問 事 項	中津市	国	市と国の差
成果が見られる質問	(26)	5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか【週1回以上の割合】	54.3	40.1	+14.2
	(27)	あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか【週1回以上の割合】	47.1	39.0	+8.1
	(41)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	80.1	73.5	+6.6
	(42)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	88.3	81.1	+7.2
	(43)	国語の勉強は好きですか	65.1	58.4	+6.7
	(50)	国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか	79.9	74.3	+5.6
	(52)	算数の勉強は好きですか	74.2	67.8	+6.4
	(53)	算数の授業の内容はよく分かりますか	90.3	84.6	+5.7
課題が見られる質問	(5)	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか【2時間未満の割合】	44.7	50.5	-5.8
	(18)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）【2時間以上の割合】	20.7	26.9	-6.2
	(19)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）【2時間以上の割合】	22.1	29.7	-7.6
	(63)	これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）	38.5	44.4	-5.9

## 生徒質問紙

肯定的に回答した児童の割合について（全国平均と比較して±5Pを超える項目）

	番号	質問事項	中津市	国	市と国の差
成果が見られる質問	(26)	1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか【週1回以上の割合】	41.6	33.4	+8.2
	(27)	あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか【週1回以上の割合】	45.3	34.8	+10.5
課題が見られる質問	(18)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）【2時間以上の割合】	36.2	41.8	-5.6
	(21)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）【少しでもする割合】	53.7	62.3	-8.6
	(32)	1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	54.2	62.0	-7.8

## 2 中津市の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- ・小・中学校とも、「国語・算数（数学）が好き」「国語・算数（数学）がよくわかる」と答えた割合は全国を上回っている。児童生徒が肯定的に捉えている結果から、授業改善が進んできていることがうかがえる。しかし、正答率で全国平均を下回っている教科もある。子どもたちの学びをきちんと評価し、それを指導に生かす取り組みや、授業、補充学習、家庭学習の連動を一層充実していく必要がある。
- ・小・中学校とも、ICTの授業での活用は進んでいる。現在の活用方法が、児童生徒が主体的・対話的で深い学びにつながるものであるかを検討し、より効果的な活用方法を探っていく必要がある。
- ・小・中学校とも、テレビゲームを平日に2時間以上する児童生徒が全国平均を上回っている。また、1日当たりの家庭学習の時間は全国平均を下回っている。家庭・地域・学校が連携しながら、啓発的な取り組みや下校後の生活時間の見直し等を組織的、計画的に行っていく必要がある。
- ・中学校では、学校の授業時間以外に読書をしない生徒が半数ほどいる。学校図書館司書との連携を強化し、国語科を中心に読書に向かうような学習活動を仕組んでいく必要がある。
- ・中学校では、自分の考えがうまく伝わるような工夫をして発表するという生徒の割合が低い傾向がある。授業の中で、目的意識・相手意識を持った学習活動を仕組むとともに、工夫の視点を与えたり、見直す機会を設けたりするような場面の設定を行っていく必要がある。